

JAしまねびより

2018
8

August Vol.29

特集 島根のいいもの再発見!! 「斐川町 タマネギ」 斐川地区本部



Haruichi
斐川平野
収穫と築地松



島根には誇れる農産品がたーっくさん！
島根のいいもの再発見!!
 直撃・生産者インタビュー！

東西に長く広がり、海も山もある自然環境豊かな島根県。島根には、胸を張って誇れる農産品が実は多種多様にあるんです。毎月、その農産品を紹介、生産者の生の声を聞いていきます！

【斐川町 タマネギ】

8月は、斐川地区本部。出雲市斐川町で、タマネギの生産に取り組む、常松種苗(株)の常松信光社長にお話をお伺いしてきました。



お話を伺った常松信光社長

タマネギの生産をはじめてどのくらいになりますか？

先代の父親の時代からタマネギを栽培しています。平成23年に法人化し、種苗事業とタマネギ栽培を中心に農業を営んでいます。私自身は会社勤めを経て、農業に携わって15年になります。苗部会の一員としてタマネギをはじめトマトやスイカ、ナスビ、キュウリなどの種苗事業を行なっていく中で、おかげさまで、部会員として苗の品質は高い評価を頂いています。斐川町管内では、盛んにタマネギが栽培されていましたが、近年は生産者が減少、出荷量も減りつつあります。そうした中で、タマネギの生産を徐々に



簸川平野に広がるタマネギの圃場。

拡大、現在は3・8ヘクタールの面積で栽培しています。

年間の栽培(事業)スケジュールはどのようなものですか？

種苗店から苗部会に注文を受け、ナスビやキュウリ、トマトなどの苗を4月頃まで作り、5月をめどに出荷します。タマネギは9月に種を播いて10〜11月に苗を販売。自社での栽培は11月初旬に定植し、年が明けた5月下旬頃から6月にかけて、葉が倒れ始めたら収穫の合図、土から抜いていきます。その後7月に入ると、タマネギ苗を作るための土壌消毒など、管理を行い、一年を通して、なるべく効率よく



今年のタマネギは出来が良く、収穫量もいつも以上！

作業するよう心掛けています。

タマネギの栽培で感じる 事や、大変なことなどお りますか？

露地の色々な野菜と同じだ
と思います。天候や病気には
細心の注意を払っています。
特にべト病が厄介で、病
気が蔓延しないように管理を
徹底しています。また今年の
2月、急激に冷え込んだ影響
で早生（わせ）品種のタマネ
ギの生育が遅れました。毎年、
色々なケースが出現し、試行
錯誤しています。自分のイ
メージ通りにはいかず何が正
解か、さっぱりわからない事
も多々あります。ただ、失敗
を糧に、困難に立ち向かって



出荷作業は機械選別を導入し、効率があ
がったとはいえ、細々とした手作業や人の
目ももちろん重要で、一番手のかかる作業。



余分な茎と根を切り落とす作業は、タマネギ
を長持ちさせるためにも、とても大事。

いく事が農業の面白みでもあ
ると感じています。去年は初
めて、モチ米を栽培している
圃場約1ヘクタールの裏作と
してタマネギを定植し、無事、
収穫することができました。

タマネギの出荷には、選別
機を使いSから2Lサイズに
分別して出荷します。作業量
が多く、収穫したタマネギの
先端、余分な茎部分と根を、
ハサミを使い1個1個手作業
で切ります。みかんの選別機
を応用した穴にタマネギを通
して大きさを選別。この一連
の作業をパート従業員7〜8
人で行っています。適度な大
きさや長さになった苗を品種
ごとに100本単位、ワラで
結んで出荷します。多い時で
20万本位出荷します。すべて
手作業なので、労力をとても
要します。

タマネギは大小あります が、大きさによって味の 違いなどあるのですか？

大きさによる味の違いは特
にないと思います。多くのご
家庭でタマネギは身近な野菜
で、色々な食べ方があると思
いますが、焼く・煮込むこと
で、タマネギ本来の美味しさ
を楽しむことができます。大
きさによっての味の違いは大
差ないものの、早生（わせ）
のタマネギは一般的に甘みが
あり、柔らかいとされ、奥手
はよりシャキシャキ感を堪能
することができます。また、
現在栽培しているタマネギは
加工用として多く出荷してお
り、なるべく大きくするよう
にしています。

今後の抱負や展望を聞か せてください。

法人としてタマネギ生産に
携わる上で、従業員の存在が
あってはじめて、事業として
成り立つので、従業員を第一
に考えています。収穫や出荷
時など大事な時期に人手がい
ないと後手後手になり計画通
りにいかなくなります。従業
員を第一に考え、ちよつと空
いた時間や、土日のみの勤務



出荷作業には多くの人手を要し、その人
手を確保することが経営の鍵を握るという。

など、個人の生活スタイルに
合わせて働いてもらえるよう
努めています。遠方から出勤
する従業員もおり、ありがた
い限りです。みんなが和気あ
いあいとしながらも、真剣に
作業する姿は心強いです。少
子高齢化でタマネギを作る人
は少なくなってきましたが、
食卓には必要不可欠なも
の。今後も美味しいタマネギ
を作り続けて行きたいと考え
ています。



常松社長の笑顔に、今後の農業経営の
変化やあり方を見せられたような気がする。

タマネギ 一口メモ

斐川町では、以前はタマネ
ギ栽培をする人がたくさんお
り、野菜部会も概ね200人
の会員がいたが、現在は数十
人の規模まで縮小した。タマ
ネギは価格の変動が比較的大
きいとされ、輸入品も台頭し
てきたことから、徐々にタマ
ネギの生産が減少してきた。
そこで常松さんは機械化を進
め、加工用としての出荷を強
化、出東地区では最大規模で
タマネギを生産している。規
格外のタマネギは社会福祉施
設に無料で譲渡するなど、社
会貢献も定期的に行っており
、斐川町産のタマネギが途
絶えないよう使命感を持って
生産している。



＼チャレンジ／「JA自己改革」



「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つを基本目標に、JA自らが進める改革のことをJA自己改革と言います。JAしまね農業戦略実践3カ年営農計画の取り組みはもとより、食農教育や社会貢献活動等を通じて、地域活性化と住みよい地域社会づくりをめざします。

島根米の安定的取引拡大と販売拡大に向けた取り組み

需要や引き合いの強い米の生産、販売をすすめることで、長期安定的な販売が確保でき、稲作経営の安定・維持につなげることができることから、JAしまねは販売先卸と事前契約（収穫前契約・複数年契約）の締結に積極的に取り組んでいます。

販売先卸を通じて量販店や中食・外食等の実需者と産地の間で安定取引を拡大していくとともに、産地と実需者との結びつきによる「顔の見える販売」の強化につなげていきます。30年産島根米では事前契約をJA集荷目標値の80%にあたる34,000トンを目指し契約推進を行っているところです。

また、販売先卸ならびに実需者からは、特に「きぬむすめ」と「つや姫」に対しての要望数量（引き合い）が高く、今後ますますの作付拡大が求められています。

一層の生産、販売拡大につなげるべく、販売促進活動にも力を入れており、沖縄県での販売促進活動を4年前から実施するなど、「島根県産つや姫」は認知度を含め定着しています。また、県内においては島根米の販売促進、消費拡大に向けて広告宣伝・PR対策の強化に努めています。



<沖縄県におけるつや姫の販売促進活動>



<きぬむすめのテレビCM>

島根米生産者の皆さまへ

JAしまねでは、「農業者の所得増大」を最大目的として、JAに出荷をいただく島根米生産者の皆様からの30年産米の買取手法について以下のとおり実施させていただきます。

1. 出荷時の「仮単価」と、12月の「追加金」の2段階によるお支払いをいたします。なお、お支払いの考え方は29年産と同様とします。

8月以降12月にかけて、全国の作付状況や作況、また収穫量が公表され、これらの状況をふまえた需給見通しなどにより販売価格も左右されます。このことから、より精度の高い買取金をご提示するために2段階によるお支払いにより、生産者の皆さまの所得向上と計画的な営農を支援します。

2. さらに、精算可能財源が生じれば、翌年11月を目途に最終精算金をお支払いします。

これからも、結びつきの強い「島根米」の販売を通じて、高評価の確立を目指してまいりますので、30年産米も1袋でも多くJAへ出荷いただきますようお願い申し上げます。



JAしまね農業振興支援事業 活用事例のご紹介

JAしまねでは、経営拡大に向けた基盤整備や機械等の更新対策、県域でのモデル事業を実施するために、「JAしまね農業振興支援事業」に取り組んでいます。

農事組合法人 サンライズうづか

組合長 向山 剛之

海士町の農事組合法人『サンライズうづか』では現在主食用米17ha、WCS（稲発酵粗飼料）用稲2.5haを栽培し水稻中心の経営を行っております。平成19年に経営面積10haでスタートし、現在の組合員数は13名です。耕作放棄地をなくし農地を維持する、地域の発展に貢献するなど地域農業を守るということを基本方針にしています。



JAしまねの農業振興支援事業を活用し平成28年にコンバイン、29年に大型の田植機を導入し、経営規模の拡大、作業効率の向上をすすめ、販売額も1,700万円と順調に実績を伸ばしています。また安心・安全・美味しい農産物を消費者に提供するため「美味しまね認証」の取得に向けた取り組みも始めています。

近年は異常気象・農業者の高齢化・担い手不足など農業を取り巻く環境はとても厳しい状況におかれています。マイナス面ばかりが目立つ時代だからこそ農業振興のチャンスと捉え、JAしまねと共に奮起し魅力ある事業活動ができるよう汗を流してまいりたいと思います。そして我々の取り組みに少しでも共感していただき、新規就農される若者が増える事を心より期待しております。

理事会情報（6月29日開催）

協議事項

- ① 農業所得増大・地域活性化応援プログラム「平成30年度県域企画応援事業計画」及び各要領の設定について
- ② 組合と理事との取引（契約）の承認について
- ③ 第4事業年度業務報告書について
- ④ デイスクロージャー誌2018について
- ⑤ 運営体制改革にかかる今後の進め方について
- ⑥ 理事の個別役員報酬額の決定について

報告事項

- ① 平成30年度JAしまね農業振興支援事業第1回（6月）申請について
- ② 「摘果メロン」に対する農業誤使用について
- ③ 米穀園芸情勢について
- ④ 畜産情勢について
- ⑤ 平成30年度第2四半期の余裕金運用計画額および運用方針について
- ⑥ 平成29年度防犯カメラ寄贈について
- ⑦ 平成29年度カーブミラー寄贈について
- ⑧ 組合と理事との取引（契約）の報告について
- ⑨ 未収金等の債権の償却について
- ⑩ 個人情報法の違反又は法違反のおそれのある事案に関する報告書の提出について
- ⑪ 平成30年5月末主要実績について
- ⑫ 平成30年5月末月次決算について
- ⑬ 旧松江JA会館跡地の活用について
- ⑭ 就業規則制裁条項の適用について
- その他① 農政をめぐる情勢について
- その他② 青年・女性理事活動報告等
- その他③ 全農低価格モデルトラクタの機種決定について

雲南

「おもてなしプロジェクト」 JA自己改革を応援！

JAしまね雲南女性部は、今年度の統一行動として「おもてなしプロジェクト」と名付けたJA支店の美化活動を始めました。JA自己改革の後押しとなるよう「自分たちのJAを自分たちで守る」という意識を女性部員で共有するために、高橋美佐子部長が提案しました。高橋部長は「JAは自己改革の正念場を迎えている。JAをよりどころとしている私たちは大きなことはできないが、一緒に歩みを進めていく姿勢をアピールしたい」と思いを話します。

女性部雲南吉田支部は、植え込み花壇の剪定や入口付近の清掃。大東支部と加茂支部は、玄関周りを花で飾りました。参加した部員は「訪れた方々が、きれいな花で和んでもらえれば嬉しい。小さな活動だが、自己改革への大きな一歩だと感じた」と話します。

大東支店の糸原支店長は「ありがたいの一言。JAグループも自己改革の取り組みを加速しているが、私たちには強力な応援団がいることを実感した」と感謝を述べました。



支店職員と協力し「みどりのカーテン」やプランターを準備しました

隠岐

JAカップ学童野球 松江・隠岐地区予選

JAカップ第35回島根県学童軟式野球選手権大会の松江・隠岐地区予選が7月14日から3日間、松江市鹿島町の深田運動公園野球場など4会場で行われました。24チームが出場し、隠岐からは、都万レッドスターズ・五箇ミラクルズ・西郷ファイターズの3チームが参加いたしました。

大会前日には、隠岐汽船ターミナル内において壮行式が開催され、佐々木賢治本部長が「健闘を祈ります」と各チームを激励しました。

隠岐の島町では島内の子供が減少し、野球チームの維持も困難になってきている中で各チームとも健闘しました。優勝は城西レッドスターズで、8月18日・19日の両日、松江市営球場で開催される県大会へ出場いたします。



くにびき

くにびき女性部が最優秀賞！ 中四国地区JA女性組織リーダー活動発表

くにびき女性部の諏訪智子さん（津田支部）が7月5日、米子市で開催された2018年度中四国地区JA女性組織リーダー研修会の「組織体験活動発表」に、島根県代表として出場し、最優秀賞に輝きました。

研修会は5日・6日の2日間行われ、9県のJA女性部員約250人が参加し、会員相互の交流を深めました。

当日は、各県の代表が自組織の活動について発表。諏訪さんは「食で繋(つな)がる縁・笑顔が広がる女性部の輪」と題し、郷土食材を使った料理教室や裏方として料理を提供した婚活イベントなど、女性部が関わった、さまざまな活動をユーモアを交え紹介しました。

審査員からは「とても力強く、表現力もすばらしかった。今後、さらに地域を活性化してくれるだろうと期待が持てる発表だった」と講評。諏訪さんは「名前を呼ばれた時は、びっくりした。女性部みんなの活動の賜物。JA全国女性大会でもしっかりPRしたい」と喜びと抱負を語りました。

来年1月のJA全国女性大会に諏訪さんは、中四国代表として出場します。



やすぎ

大型特殊免許(農耕車限定) 取得講習会開催

やすぎ地区本部は6月27日・28日の2日間、安来市穂日島町のやすぎ担い手支援センターで、大型特殊免許（農耕車限定）の取得に向けた講習会を開催しました。市内の営農組合や新規就農者など総勢10人に受講いただき、基本操作の確認や試験のポイントなどを学びました。

この講習会は、近年、営農組合や大規模農家において大型機械の導入が増加する中、免許を取得し安全に使用してほしいとの思いから毎年開催しています。講師は免許を持つJAの職員ががつとめ、受講者は交通ルールなどの座学講座を2時間程度受けた後、敷地内で実際に大型トラクターを運転し、走行確認や方向変換などの練習を行いました。

JAの職員は「試験に受かることも大切だが、安全に使用してもらうことを第一に免許取得の推進に力を入れています」と話しています。



斐川

はとむぎの魅力伝える

はとむぎ茶を中心とした関連商品を開発・販売しているJAしまね斐川地区本部よい食工房は、はとむぎの魅力地域の人たちに広く知ってもらい地産池消につなげようと、はとむぎ料理講習会を同地区本部のあぐりキッチンふぁみーゆで開催しました。講習会には、町内外から約30人にご参加いただきました。講師にはマクロビオティックを実践している郷土マクロビアン岡里美さんを招き、「誰でも簡単・お手軽レシピ」と題して、「はとむぎ冷やし坦々うどん」「はとむぎ入りポテトサラダ」など計4品を紹介しました。岡さんに手ほどきを受けながら調理をして、完成したあとはみんなで味わいました。岡さんは「料理を通じてマクロビオティックを楽しんでもらうことが一番の喜びです」と話し、参加者からは「いろいろな加工品があり様々な食べ方ができアレンジしやすいのも魅力」と感想が寄せられ、講習会は大盛況となりました。



隠岐 どうぜん

西ノ島町畜産振興施設が完成 家畜市場を開催

6月26日(火)浦郷市場(旧浦郷農協管内)老朽化に伴い建設が進められていた「西ノ島町畜産振興施設(旧黒木農協管内、美田船越)が完成しました。西ノ島町主催の竣工式が施設のお披露目を兼ねて行われ、当地区本部もJA農産加工場にて製造した紅白餅でもち投げをしました。

この西ノ島町畜産振興施設は、穏やかな美田湾の海岸道路沿いに立地しており、誘導レー尔付家畜市場セリ場、郡内家畜集出荷施設、飼料倉庫、糞尿処理施設、畜産研修施設が配置されています。当地区本部ではこの機能を余すところなく活用し、今後畜産業が地域の旗手となるよう取組んでまいります。また、7月5日(木)には同施設初の西ノ島家畜市場が開催されました。子牛119頭・成牛10頭の上場があり、畜産農家をはじめ関係者の方々にご協力いただき無事にセリ終えることができました。



石見銀山

職員海岸清掃ボランティア

大田市の各種団体で構成する「大田市海岸を美しくする活動実行委員会」は7月15日、同市久手町の「迫海岸」の清掃作業を行いました。実行委員会の一員である石見銀山地区本部からは、39名の職員が参加しました。

同実行委員会は、毎年海水浴のシーズンになると市内の関係機関、市民へ海岸清掃ボランティアへの参加を呼びかけ、海岸のごみ拾いをしています。参加者が一斉に清掃することで、生活環境の保全や海洋環境の保全の意識を高めることを目的としており、今年で15回目を迎えます。

当日は早朝から多くの構成団体が集まり、炎天下の中、海岸清掃を行いました。



迫海岸のごみ拾いをする職員

出雲

県版GAP「美味しまね認証」 認証産品を生産者がPR

ラピタ本店で7月17日から22日の6日間、島根県版の農業生産工程管理(GAP)制度「美味(おい)しまね認証」の認証産品のフェアを開きました。17日と21日は菌床しいたけ、アスパラガスの生産者らが店頭立ち、試食販売で消費者と交流しました。

販売したのは菌床生しいたけ、アスパラガス、青ネギ、「こめたまご」の4産品。試食には全ての産品を使ったオムレツを用意しました。会場には「美味しまね認証」の詳しい説明を掲示し、安全性と優れた品質が認められた産品であることをPR。来場者は「今まで意識したことがない制度でしたが、話を聞いて初めて分かりました」と話しました。

(有)旭養鶏舎、(有)福田ファームの「こめたまご」、JAしまねエコネギ研究会県認証グループの青ネギは、平成21年に認証を取得。JAしまね出雲しいたけ部会が生産する菌床生しいたけ、JAしまね出雲アスパラガス部会美味しまね認証グループが生産するアスパラガスは、今年3月に取得しました。安全・安心を目に見える形でPRしていきます。



販売した4産品

西いわみ

「おいしい」を届けます。 益田産アールスメロン初出荷

JAしまね益田メロン部会（部会長松本哲夫）は7月4日、夏の贈答需要期に向けたメロン「アールス」の出荷を始めました。

同部会では「アールス」の出荷時期を7月出荷の夏作と10月出荷の秋作に分けて栽培しています。

当日は、5戸の生産者が48個のコンテナを持ち込みました。出荷に先立って選果スタッフや部会員らが立ち会い、品質を確認しました。

JAでは夏作「アールス」の出荷目標を13,000ケース、約104トンと見込んでおり、京阪神市場や県内各市場に夏の味覚を届けます。



本店

アグリミーティング2018 最新技術や作業服を紹介

7月7、8日の両日、松江市くにびきメッセでアグリミーティング2018と第8回農機総合展示会を開催し、県内各地から担い手の皆様をはじめとした2,111名にご来場いただきました。会場ではスマート農業ブースや各種相談ブースをはじめ、セミナー、農機展示など、担い手のニーズに沿ったものを多数取り揃え、最新情報を提供しました。農作業服を提案するファッションショーでモデルを務めたのは、各地区本部管内の担い手のみなさんです。特別ゲストとして竹下組合長とJA女性部の長島部長が登場するなど、会場は大変盛り上がりしました。当日は島根大産直市も開催し、出雲農林高校の生徒さんや地区本部などが、新鮮な野菜や農産加工品を販売しました。



気分はパコレモデル
竹下組合長と出雲農林高校の生徒さん

島根おおち

都賀小水力発電所始動

島根おおち地区本部が保有している、都賀小水力発電所が改修工事を終え、7月13日に竣工式をとり行いました。

都賀発電所は、江の川水系塩谷川の豊富な水資源を活かし、農業の近代化に伴う電力需要の増大に呼応するため、昭和38年に建設されましたが、およそ半世紀に渡る稼働で老朽化が進んだため、再生可能エネルギー特別措置法の法改正を転機と捉え、同法に基づく電力の固定価格買取制度（FIT）を利用し、29年度より大規模改修工事に着手しました。

改修後の新たな施設では、年間145万kwh（キロワットワ）の売電を予定しており、安全なクリーンエネルギーの活用・確保に向けた取り組みをすすめ、地域の水資源を活かした小水力発電所を後世に引き継ぎます。島根おおち地区本部では、都賀小水力発電所の他、角谷小水力発電所も保有しており、10月竣工予定としております。

改修工事にあたり、地元の皆様のご理解とご協力を頂きましたことを厚くお礼申し上げます。



いわみ中央

みんなで取り組もう！ 日差しを遮るみどりのカーテン

JAしまねいわみ中央地区本部は、JAしまねとJAしまね女性部の統一行動『みどりのカーテン』の実施にともない、5月から6月にかけて各支店でゴーヤやアサガオ、ふうせんかずらなどの苗をプランターに植えました。暑い日差しをさえぎるみどりのカーテンが、今では窓を覆うくらいにまでなりました。これからも支店の職員で水やりなどをしながら育てていきます。支店だけでなく、JA女性部のそれぞれの家庭においてもみどりのカーテンを実施しています。今年は特に猛暑が続き、このみどりのカーテンが大活躍してくれることでしょう！



タテのカギ



- ①電流を流したり切ったりする装置
- ④深谷、下仁田、九条といえば
- ⑥膝より下、くるぶしより上
- ⑦野山を耕して畑にすること
- ⑨鉄棒や跳び箱を使って行う一体操
- ⑪木を育てたり切り出したり加工したりする仕事
- ⑬体の90%以上が水分だという、水にすむ生き物
- ⑮年下の女きょうだい
- ⑰田楽にしてもおいしい紫色の実野菜
- ⑲あ、おいしそう。ひと——ちょうだい!
- ㉑カイコの繭から作ります

ヨコのカギ



- ①十五夜に飾る植物
- ②米の収穫作業の一つ
- ③エレベーターの表示では「B」
- ④よく飼われているペットなんだニャ
- ⑤石原裕次郎と牧村旬子のデュエット曲「——の恋の物語」
- ⑧——足りて礼節を知る
- ⑩和風の携帯薬入れ。黄門様のドラマでおなじみです
- ⑫恋愛運や金運などを見てもらいます
- ⑬カラオケ店で離さない人もいます
- ⑮招く人がホストなら、招かれる人は
- ⑰月の模様はウサギがこれをついているように見えるとか
- ⑲佐渡島に保護センターがある鳥

二重マスの文字を A ~ D の順に並べてできる言葉は何でしょうか?

1	6	9		13	16	20
2			11		17	
		10				
3	7				18	21
	8			14		
4			12		19	
5				15		

答え

A	B	C	D
---	---	---	---

応募要項

- 応募方法 ハガキに、答え、住所、氏名、年齢、電話番号、本誌に関するご意見・ご感想を記入して、下記宛先にお送りください。
- 賞品 正解者の中から抽選で40名（JAしまね全体）の方に「JA商品券」をお贈りします。
- 当選者発表 賞品の発送をもってかえさせていただきます。
- 宛先・締切 〒690-0823 松江市西川津町1635-1
JAしまね く に び き 地 区 本 部 ふ れ あ い 課 「クイズ」係
平成30年9月5日（水）（当日消印有効）

◆先月号の答え◆ 「ナツマツリ」

ヒ	マ	ワ	リ	バ	ス
ヤ	ス	リ	ア	ラ	ブ
ケ	ア	ジ	ソ	リ	
	ホ	イ	ツ	ス	ル
ツ	ル	カ	イ	テ	
ク	モ	リ	エ	ソ	グ
エ	ン	マ	イ	ナ	ス

・お預かりした個人情報、プレゼントの抽選・発送以外の目的で利用することはございません。

けんこうさんぽ
健康散歩
JA島根厚生連

胸部CT検診を受けてみませんか?

- 喫煙者、喫煙歴がある方
- 咳、痰などが続く方
- 40歳以上の方
- 家族に喫煙者がいる方
- 家族にがん歴のある方
- 家族・親戚に肺の疾患がある方

特に検診をお勧めする方

- がん発見率が高い（胸部X線検査の約10倍）
- 微細ながんを発見できる（5mm程度まで発見可能）
- CTで発見された肺がんは早期の比率が高く、その治療成績も良好
- 喫煙による肺へのダメージがはっきりと描出される
- 一般診療に比べ低線量被曝
- 短い検査時間（5分程度）

胸部CT検診の特徴

日本人の死亡原因の第1位はがんで、その中で最も多いのが肺がんです。肺がんは早期ではほぼ無症状で、症状が出てからでも肺がん以外の病気でも見られる症状（咳や痰など）が多く、早期発見が難しい病気です。また、肺がんは「たばこを吸う人の病気」というイメージが強く、実際に喫煙との関連が非常に大きい病気ですが、近年、日本人男性の約3割、女性の約8割の肺がんは非喫煙者に発症しています。肺がんには喫煙の影響が非常に大きいタイプとそうでないタイプがあり、喫煙以外の生活習慣や受動喫煙、環境などとの因果関係もあるので、誰もが十分にかかる可能性があります。

肺がん検診と聞いてまず思いつくのは胸部X線検査（いわゆるレントゲン）という人が多いと思います。では、「胸部CT検査」による肺がん検診というものもある事をご存知でしょうか？現在、厚生労働省が定める肺がん検診は、40歳以上の人を対象とした年1回の胸部X線検査や、痰を採取して顕微鏡で調べる喀痰検査です。しかし、これらの検査では早期の肺がんを発見するには限界があります。胸部X線検査や喀痰検査では発見しにくい、より早期の肺がんを見つけるためには胸部CT検査による肺がん検診が有効です。



沖縄で販売促進 鳥根県産「つや姫」大人気!

JAしまねと米卸業者などが、鳥根県産「つや姫」の認知度向上と販路拡大を目的に、7月20日から22日までイオン琉球の那覇店と南風原店^{はなはら}で、試食販売を行いました。米の生産量が少ない沖縄県本島では、沖縄県内の卸売業者が全国各地の米を販売しています。

JAしまねでは、これまでに19回、イオン琉球で試食販売を実施。その甲斐あって、県内産「つや姫」に対する支持を得て、固定客が増加し人気商品となっています。

今回、当地区本部からは田中鈴夫副本部長をはじめ営農経済部の職員が参加し、対面販売でアピール。購入者全員には、つや姫1合パックを贈呈し、さらに精米5キロ購入者へは、「玄丹そば」が当たるくじを実施しました。3日間で、1,493袋(5キロ)を販売しました。

同行した米穀畜産課山根敏行課長は「売れ行きがよく沖縄県での人気、知名度ともに着実に高まっていることが実感できた。今後も販売促進に努めたい」と話しました。11月にも再度沖縄で販売促進を行う予定です。

▲販売促進をする田中鈴夫副本部長



米の品質向上に向けた圃場巡回を実施

くにびき地区本部の米品質向上対策委員会(田中鈴夫委員長)は7月3日、生育状況の確認と栽培技術向上に向けた指導を行うため、管内10箇所のコシヒカリときぬむすめのモデル圃場を設置者と共に巡回しました。

同委員会は、くにびき稲作協議会、鳥根県東部農林振興センター松江農業普及部、JAで構成。昨年度より、米の品質向上に向けモデル圃場の設置や現地指導会の開催、情報紙やメール配信による栽培に関する情報提供などを実施。今年はそれに加え、圃場の巡回に取り組みました。

当日は、圃場ごとに設置者から栽培管理状況の説明を聞いた後、同普及部の加納正浩専門農業普及員が今後の栽培管理に関して、水管理や病害虫防除について指導を行いました。巡回に同行したモデル圃場を設置する鹿島町の安立哲正さん(72)は「普段、あまり見る機会がない他の圃場で、意見交換や栽培指導を受けられ参考になった。とても有意義な巡回であった」と話しました。

同委員長も務める田中副本部長は「モデル圃場をはじめ、この委員会の取り組みを生産者に浸透させていくことで、米の1等米比率を上げ、農業者の所得向上に繋がりたい」と意欲を示しました。

圃場巡回の様子



生産技術の向上を目指す! 合同視察研修会を開催

くにびき地区本部は7月11、12日の両日、くにびき稲作協議会、くにびき農業法人会、松江市農業受託者協議会と合同で視察研修会を実施し、45名が参加しました。

この視察研修会は、生産技術の向上や良質な農作物の生産に繋げることを目的に毎年開催しています。

初日は、広島県福山市にある国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の西日本農業研究センターを訪問。担当者から広域水田営農システムや省力・高収益果樹生産システムなどについて説明を受けました。

二日目は、大阪府堺市にある㈱クボタ堺製造所を訪問。工場の概要について説明を受けた後、最新の農業機械の製造過程を見学しました。その後、大阪市内にある住吉大社を参拝し、五穀豊穡を祈願しました。

参加者は「製造ラインの管理や工夫で、作業効率向上のみならず、事故防止の徹底にも繋がるのがわかり、非常に勉強になった」と感想を述べました。



農業者の所得増大・農業生産の拡大に向けて

特産品が勢ぞろい! 島根大産直市開催



松江産の農産物を買求める来場者

県内の野菜・果物・加工品などが勢ぞろいした「ぎゅうくつと島根大産直市」が7月7、8日の2日間、くにびきメッセで開催され、各地から集まった生産者や市民らで賑わいました。会場では、JAしまねの各地区本部ブースが並び、野菜や牛肉などの特産品を販売。くにびき地区本部からは、トウモロコシやミニトマトなどの野菜をはじめ、ぶどうや桃など旬の果物、農産物加工食品も販売しました。また、つや姫のすくい取りや牛乳試飲コーナーと併せた骨密度測定もあり、親子連れなどの来場者の目を引いています。

た。

また、隣の会場では、農家の経営支援や営農指導を目的とした「アグリミーティング2018」や大型農機や最新機種を体感できる「農機総合展示会」も同時開催。

鳥獣対策のわなの展示や栽培技術を紹介する特設ブースなどが整然と並び、生産者が真剣な表情で見学していました。

さらに特設ステージでは、かわいらしいデザインの農作業着をPRするファッションショーが開始。来場者は、モデルの女性たちに熱い拍手を送りました。モデルとして農作業着を披露した女性は「おしゃれなだけではなく、機能性も兼ね備えてあり、皆さんにも気に入ってもらえると思う」と話しました。

会場には、新規就農支援や農業融資、鳥獣害対策などの、相談ブースも設置されており、訪れた来場者は担当者の話に耳を傾けていました。

来場者は「農業を様々な角度から楽しめるイベントだった」「日頃悩んでいたことを相談できてよかった」と満足そうに話しました。



農作業着をPRするモデル

自動車・農機の 合同展示会 各種車両が勢ぞろい!



新車や中古車がずらり

くにびき地区本部は7月21、22日の両日、農機自動車センターで合同展示会を開催し、合計486名が来場しました。

展示会は、日頃の感謝と利用者を増やすことを目的に、組合員のニーズに応じた商品を取りそろえて毎年開催しています。

会場には、自動車販売会社などから取り寄せた新車や中古車、タイヤなどのほか、最新の農業機械や関連機械などを展示。特別企画として、一部商品を割引価格で販売したほか、かき氷の無料配布なども実施し、猛暑の中、来場した親子連れをもてなしました。

来場した小林昭男さん(52)は「農機具の消耗品が安く購入できるので重宝している。最新の機具の安全性能も確認することができてよかった」と話しました。



農機具を見る来場者

地域活性化に向けた地域貢献活動に取り組んでいます。

～くにびき地区本部の取り組み～



フードバンクしまね 「あったか元気便」始動!

フードバンクしまね「あったか元気便」準備会(代表・竹谷 強古志原公民館長)は7月28日、古志原地区の子どもがいる世帯で食品の支援を必要としている家庭に向け、給食のない夏休み期間に食品を配送しました。

同準備会は、竹谷代表をはじめ生協しまね、松江保健生協、グリーンコープ島根、地域つながりセンター、島根労働協や当地区本部の代表者らが呼びかけ人となり設立。子どもたちが安心して健やかに成長していくことができるまちづくりを目的に、古志原小学校に在籍する家庭を対象に、夏休み期間中に2回実施します。今回は、1回目の箱詰めと出発式を行いました。

お届けは、宅配便を利用するため、食品やコメの他寄付金を募り、当地区本部(子会社の協同サービス含む)役員から、コメ353kg、寄付金6万1千円余が集まりました。



当日は、東出雲町の生協しまね南支所で、関係者により食品やコメを箱詰め。申請のあった28世帯を家族構成に応じて区分し、手際よくコメやレトルトカレー、缶詰、乾麺、お菓子などを詰め、最後に手紙とアンケート用紙も同封しました。

その後、古志原小学校の富谷校長などを招き出発式を実施。富谷校長は「猛暑が続く中で、この温かい取り組みは本当に嬉しい。地域の子どもたちは地域で育てていけるよう、共にこれからもお願いしたい」と感謝の言葉を述べられました。

呼びかけ人として当日も参加した田中鈴夫副本部長は、「定着化のため、一層の支援と理解の醸成に取り組んでいきたい」と強い意気込みを語りました。8月17日には2回目の発送を行う予定です。



盾を授与する川上副本部長



J Aカップ第35回島根県学童軟式野球選手権大会松江・隠岐地区大会が7月14日から16日の3日間、鹿島町の深田運動公園野球場他3球場で開催されました。松江、隠岐地区の24チームが競い、城西レッドスターズが優勝しました。地域スポーツの振興を目的に、県軟式野球連盟などが主催し、

城西レッドスターズが3年ぶり3度目の栄冠に輝く J Aカップ松江・隠岐地区大会が開催

J Aしまね、J A共済連島根が特別協賛しています。試合は3日間にわたるトーナメント戦で、白熱した戦いが繰り広げられました。決勝は、城西レッドスターズ



優勝した城西レッドスターズ

と中海少年野球団が対戦。中盤以降、城西レッドスターズは中海少年野球団の投手陣から大量得点し、安定した投手リレーで点差を守り切り、11対2でコールド勝ちを収め、3年ぶり3度目の栄冠に輝きました。

試合後、城西レッドスターズの鎌田陽主将(小学6年生)は「みんなの力で優勝できたのでうれしい。県大会でもひとつひとつのプレーに集中し、優勝したい」と話しました。

県大会は8月18、19日の2日間、松江市営野球場で開催されます。

各組織において地域活性化に取り組んでいます。

～くにびき地区本部の取り組み～

年金友の会日帰り旅行 兵庫県や鳥取県を巡る

くにびき年金友の会（三島武会長）は7月の6、10、11、13日の4日間、兵庫県と鳥取県を周遊する日帰り旅行を実施し、合計346名が参加しました。

年金受給者、受給予約者を対象に、親睦を深める目的で、毎年企画。今年は、兵庫県の「揖保乃糸資料館 とうめんの里」、塩田温泉「里湯ひととき夢乃井」と鳥取県の智頭宿「石谷家住宅」、「いなばブルーベリーガーデン」を訪れました。

とうめんの歴史を集めた「揖保乃糸資料館 とうめんの里」では、播磨の地で生まれ育った手延とうめんについて学んだほか、2本の棒にかけられた約50センチのとうめんを分け箸を使って、約160センチの長さには伸ばす職人の妙技に、参加者は目を奪われていました。

その後、塩田温泉「里湯ひととき夢乃井」で昼食をとり、会席料理に舌鼓を打ちました。

午後からは、国の重要文化財に指定されている鳥取県の智頭宿「石谷家住宅」や、「いなばブルーベリーガーデン」に立寄り、思い思いの時間を満喫しました。参加した福島清利さん（71）は「警報がでるほどの雨の中ではあったが、行った先々の関係者の方の気遣いもあり、楽しい旅行となった」と笑顔で話しました。



とうめんの里を見学する参加者



62名が仲間と交流を深める！ くにびき女性部親睦研修旅行

くにびき女性部は7月8日、鳥取砂丘・砂の美術館と兵庫県の湯村温泉へ親睦研修旅行を実施し、仲間との交流を深めました。

部員62名がバス2台に分乗し出発。最初に訪れた砂の美術館では、「砂で世界旅行・北欧編」と題した企画展が開催されており、北欧の動物たちや「人魚姫」や「マッチ売りの少女」などのアンデルセン童話22作品が展示。部員はその幻想的で繊細な技法に驚嘆していました。

その後、料理部門で日本のホテル・旅館100選に選ばれた「井つつや」で昼食。源泉荒湯で茹でた名物「荒湯豆腐」や郷土料理の「じゃぶ煮」などを堪能しました。昼食後は温泉に浸ったり、売店でのショッピングを楽しんだり、思い思いの時間を過ごしました。帰路の途中には、「道の駅琴の浦」を訪れ、鳥取県内の新鮮な農産物やお土産を購入していました。

参加した部員は「天候が心配されたが、雨に見舞われることもなく、おしゃべりもたくさんでき楽しい旅行になった。来年も是非、参加したい」と笑顔で話しました。



砂像を楽しむ女性部員

組合員のアクティブメンバーシップ確立に向けて取り組んでいます。

～くにびき地区本部の取り組み～

サンサン女子大 営農体験学習実施 トウモロコシの収穫に 大満足！

くにびきサンサン女子大は7月21日、中海干拓地にある奥名昭一さんの圃場で「トウモロコシ栽培講座」を開催し、33名が参加しました。

5月12日に、奥名さんの指導により、約100メートルの畝4列にトウモロコシの種をまき、この日収穫を迎えました。

当日は気温が三十度を超える暑さの中、汗を流しながら1・6メートル近くまで成長し葉の生茂った幹から、次々とトウモロコシをもぎ取っていました。その後、採れたてのトウモロコシを塩茹でにし、試食しました。

学生は「種から大きく育てるのは相当な苦労がかかることがわかった。感謝しながらいただきたい」「収穫しては生で食べてもおいしくて驚いた。おいしい茹で方も教えてもらったので実践したい」と満足そうに話していました。



収穫の仕方を教える奥名さん



支店運営委員会において地域活性化に取り組んでいます。

～くにびき地区本部の取り組み～



「食」を通じた絆を育む！ 夏休み親子料理教室開催



親子で協力して調理

東出雲支店運営委員会（周藤光委員長）は7月28日、教育文化センター1San・san館で、「夏休み親子料理教室」を開催しました。

食育体験を通じて親子のコミュニケーションが深まりました。

当日は、東出雲町在住の小学生とその保護者13組のほか、支店運営委員、JA職員、講師を務めるくにびき女性部東出雲支部の部員など38名が参加しました。

冒頭、森口順子副委員長が「食を通じて、親子の絆を深めてほしい。また、夏休みのよい思い出になるよう、楽しいひとときにしてください」と挨拶。続いて、講師が作り方を説明し、調理を開始しました。「カボチャのクリミミグラタン」「夏野菜のカレースープ」「黒酢風味の肉だんご」「お楽しみおにぎり」「ミルクかん」の地元産の食材をふんだんに使った5品を親子で協力しながら完成させた後、全員で試食を楽しみました。



～「食」を通じた絆を育む～
夏休み親子料理教室



完成した5品



みんなで試食

宍道支店でビアガーデン開催！ 花火が夏の夜空を彩る



宍道支店運営委員会（伊原幸俊委員長）は7月27日、恒例のビアガーデンを同支店の駐車場で開きました。今年

は、まつえ南商工会青年部宍道支部との合同開催となり、多くの地域住民が訪れ、例年以上の盛り上がりを見せました。

ビアガーデンは、宍道町内にある水川神社の「祇園祭（れんげさん）」に合わせて、毎年開催。

当日は、支店職員や支店運営委員らが売り子となつて、生ビールやかき氷をはじめ、島根和牛の串焼き、町内産のスイカや枝豆などを販売。会場を訪れた人たちは、思い思いに暑い夏を楽しみながら、夜空に浮かぶ花火を眺めました。

伊原委員長は「商工会青年部と合同開催することで、盛大になり地域住民との交流が広がった。今後も農商工が連携し、地域を活性化させたい」と熱い思いを語りました。

来場者は「暑いなかではあったが、よさこい踊りや種類豊富な飲食ブースがあり楽しめた」と満足そうに話しました。



にぎわいを見せる会場

田んぼアート見ごろ 「しまねっ」が西忌部町に出現



くつきりと浮かび上がった「しまねっ」

異なる品種の稲を使って巨大な絵を描く「田んぼアート」が見ごろを迎えています。西忌部町の水田では、緑の苗を下地に、島根県の観光マスコットキャラクター「しまねっ」が浮かび上がっており、道行く人の目を引いています。

この活動は、忌部の豊かな自然を体感してもらおうと、忌部地区流出水対策協議会（松浦久義会長）が中心となつて、2011年から毎年企画。5月26日にはJA乃木支店の職員も参加して、総勢約90人で古代米4種類とさぬむすめを植えました。

くにびき地区本部運営委員も務める松浦会長は「今年も綺麗に浮かび上がっている。多くの人に楽しんでもらいたい」と話しました。9月下旬には収穫を予定しており、参加者に精米2キロを配布する予定です。

お米作りの出前授業 くにびき青年連盟



田車の使い方を説明する野津委員長（中央）

大切ななどを、スクリーンに映し出された画像を見ながら説明。また、盟友が持参した田車や米俵、30kgの米袋に触れる時間もあり、園児たちは興味を引かれていました。

JAしまねくにびき青年連盟（野津喜洋委員長）は7月3日、育英北幼稚園で出前授業を行いました。6月の田植えに続き、稲が成長する様子をもっと詳しく知ってもらおうと実施しました。当日は、つき組（年長5歳児クラス）の園児19名とその保護者に対して、野津委員長他2名の盟友が先生となり、授業を開始しました。お米についての豆知識や食事の

は興味を引かれていました。園児らは「雑草はなぜ抜くの?」「なんでいろいろな機械を使って作業するの?」などと質問し、3名の盟友が、わかりやすく丁寧に回答していました。最後には、食農教育をすすめる子ども雑誌「ちやぐりん」8月号をプレゼントし、お米の授業を締めくくりました。10月には稲刈りを行う予定です。



質問する園児



くにびきサンサン市場駅前店 リニューアル1周年記念イベント開催

くにびき地区本部は7月14日、JR松江駅高架下にあるの「くにびきサンサン市場駅前店」のリニューアル1周年を記念し、イベントを実施しました。

店舗は駅北口から約100メートル西に向かった、地元産品を取り扱う店舗が並ぶ「こだわり市場」の一角にあります。

当日は、リニューアル1周年記念イベントとして全商品10パーセント

あつという間に店内は来店客であふれる大盛況。また、お買い上げの方にはたまご1パックプレゼントやお米のすくい取りもあり、来店客をもてなしました。来店客は「安心安全な地元産の農産物が購入でき、満足」と話していました。



購入者で賑う店内



開店前の長蛇の列

組合員加入促進運動 実施中



お申込み・お問い合わせは
各支店・ふれあい店・総務課まで

松江だんだんプロレスの
ミステリコ・ヤマト選手も
加入されました!



お便り
コーナー

たくさんのご意見、ご要望をありがとうございました。いただいたおハガキの一部をご紹介しますいただきます。

県下全域の農業に関する活動が詳しく記載されてよく理解できます。写真もきれいで記事も読みやすいです。
(T・Aさん)

地区本部トピックスでは各地で行事をおこなっている様子がわかり、地域を盛り上げる努力がされていて感心しています。
(T・Mさん)

くにびき女性部がお届けする 松江に伝わるふるさと料理

松江に伝わる郷土料理を次代へ伝承していくため各地区のメニューを季節ごとに紹介します。



シソジュース

鮮やかな天然色のシソジュースは見た目も味もさわやかで夏にぴったりの飲み物です。シソは栄養価が高く、疲労回復や食欲増進効果があるため夏バテにも効果的です。残ったシソの葉は刻んで、ちりめんじゃこ、砂糖、醤油に水を加えて炒めれば、夏にぴったりのさっぱりとしたご飯のお供になりますよ。



シソの葉とちりめん佃煮

今月の料理人

八東支部
渡部 照子 さん (右)
曾田 洋子 さん (左)



氷をうかべるとより一層美味しく召し上がれます。水の代わりに炭酸水で割って飲むのもおすすめです。

【材 料】(4人分)

- ・赤シソの葉……………100 g
- ・グラニュー糖……………200 g
- ・水……………4カップ
- ・酢……………1/2カップ

【作り方】

- ①シソの葉をきれいに洗い、鍋に水とシソを入れる。シソが浮いている場合は落し蓋をする。5分位煮立たせてから酢を入れ、更に2分煮てから火を止める。
- ②シソの葉を引き上げ、うわずみ液を取りグラニュー糖を入れ加熱して溶かし、冷ましたら完成。冷蔵庫で保存する。
- ③3～4倍に薄めていただきますよう。

参加者募集!

サン●サン 料理教室

日時

2018年9月28日(金) 10:00~13:00

※定刻になり次第開始しますので、時間に余裕をもってお出かけください。

場所

くにびき地区本部
San・san館

松江市西川津町1635-2

おいしい!速い!簡単!省エネ向きのムスイなべは食材の水分を最大限に利用し、食材本来の旨みを引き出します! JA女性部が講師となりコツを教えます。



9月のメニュー

時短で簡単! <ムスイなべを使って!>

★シーフードピラフ ★鶏肉の唐揚げチリソース

★大豆たっぷりポークビーンズ ★ココアシフォンケーキ

★ヘルシーヨーグルト

(都合により変更させていただくことがあります)

募集人数 20名程度

組合員、利用者、松江市民の方を対象に募集します。(男女を問いません)

参加費 1,000円(当日申し受けます)

準備品 エプロン・三角巾・マスク・筆記用具など

申込締切 平成30年9月20日(木)

お申込み/お問合せ

①住所②氏名③電話番号をご記入の上、はがきまたはFAX、Eメールでお申込みください。

〒690-0823 松江市西川津町1635-1

くにびき地区本部企画総務部ふれあい課・サンサン料理教室係

TEL: (0852) 55-3018 FAX: (0852) 32-6870

E-mail: community-affairs.kun@ja-shimane.gr.jp

第2回 JAしまね くにびき地区本部 本部長杯 ふれあいゴルフコンパ

参加者募集中!

開催日：平成30年10月3日(水)
 場所：玉造温泉カントリークラブ
 松江市宍道町西来待790 Tel.0852-66-0031
 参加費：2,000円
 プレー費：各自精算 (キャディ無し)
 募集定員：20組 80名程度
 申込先：くにびき地区本部 各支店・ふれあい店
 申込期限：平成30年9月18日(火)
 表彰式：玉造温泉カントリークラブ
 その他：スタート時間及び組合せは後日ご案内いたします。

皆様のご参加お待ちしております

【事務局】 くにびき地区本部 企画総務部 ふれあい課

〒690-0823 松江市西川津町1635-1 TEL(0852)55-3018 FAX(0852)32-6870 E-MAIL: community-affairs.kun@ja-shimane.gr.jp

くにびき地区本部 中途採用職員紹介

☆くにびき地区本部の新しい顔！
 中途採用職員をよろしくお願ひします。
 (平成30年7月1日付)

- ①出身地区 ②趣味・特技
 ③好きな言葉 ④自己PR ⑤配属先



小豆澤 恒

- ①松江市東奥谷町
 ②剣道、スノーボード
 ③男は男らしく、女は女らしく
 ④感謝の気持ちと謙虚さを忘れず、日々の業務に取り組みさせていただきます。
 ⑤東出雲支店



榎 美幸

- ①雲南市加茂町
 ②ウォーキング
 ③我が道を行く
 ④遠方から通いますが、頑張ります。
 ⑤JAグリーンつだ



長谷川侑香

- ①安来市広瀬町
 ②旅行、テニス
 ③縁
 ④地域のみなさまとのご縁を大切に1日も早くお役に立てるよう頑張ります。
 ⑤津田支店

今月の特選車

ダイハツ ハイゼット カーゴ

(年式) 平成28年式
 (走行) 52,950km
 (車体色) 水色 MT 4WD
 (車検) 車検整備済し
 (車両本体価格)
870,000円(税込)
 (諸費用別途)



※すでに売却済みの場合はご容赦下さい。

お問い合わせは
 自動車センター TEL: 55-3077

正職員募集

募集職種

- ①総合職
 (高等学校卒業者で昭和57年11月2日以降に生まれた者)
 ②専門職
 (高等学校卒業者で昭和57年11月2日以降に生まれた者、農業機械整備、葬祭業務の有資格者、または経験者)
 ③福祉職
 (高等学校卒業者で昭和53年11月2日以降に生まれた者、介護福祉士・ホームヘルパー2級資格保持者又は介護職員初任者研修修了者)
 ※この他に看護職については随時、募集しています。

待遇 当組合規程による

応募締切 8月31日(金)
 *期間内必着

応募方法 下記書類を郵送又は持参。

- 封筒の裏に「職員採用選考書類」と明記のこと
 1. 自筆履歴書 (写真貼付・希望職種明記)
 2. 卒業証明書
 3. 各種資格・免許証の写し
 4. 受験票添付用写真1枚 (縦4cmx横3cm・6か月以内撮影)

選考方法 筆記試験・面接試験

試験日 平成30年9月18日(火)

試験場所 くにびき地区本部
 営農総合センター2階会議室

◆応募書類送付・お問い合わせ◆
 くにびき地区本部 企画総務部人事課
 〒690-0823 松江市西川津町1635-1
 TEL: 0852-55-3013
 FAX: 0852-32-6870

9月 くにびき地区本部 各種相談会カレンダー (税・ローン)

※各相談とも無料で
 お受けしています。

日	曜日	相談会内容	場所・時間
6	木	税務相談会	川津支店 (TEL: 23-2424) 10:00~12:00
7	金	税務相談会	東出雲支店 (TEL: 52-2022) 10:00~12:00

※税務相談会のご予約は、開催日2日前までをお願いします。予約先:開催会場となる支店まで。

○くにびき地区本部金融共済部ローン営業センターでは、毎週土曜日(10:00~15:00)に休日住宅ローン相談会を開催しています。要予約。

◆お問い合わせは

☎0120-988-380 まで。

9月 ふれあい訪問日

9月13日(木)・14日(金)

あなたもチャレンジ!

家庭菜園



おいしくて形の良い ダイコン作り のポイント

板木技術士事務所 ● 板木利隆

ダイコンは、強大な根を速いスピードで地中に形成するので、根形や品質が土壌や肥料栄養の影響を受けやすい性質を持っています。

そのためには、次のポイントを押さえて育てることが大切です。

(1) 畑の準備と元肥の施し方

少なくとも種まきの20日以上前に畑全面に石灰をまき、石ころや木切れなどを取り除きながら30cm以上の深さによく耕します。吸肥力は強い方なので、前作に堆肥が施してあれば、特に堆肥を与える必要はありません。

痩せ地で有機物不足が心配なら、完熟堆肥と有機配合肥料をよく混ぜ合わせ、事前に醗酵させた物を、株と株の間に当たる所に施し、根の伸びを妨げないようにします。

(2) まきどきを守る

早まきし過ぎると病害虫の被害を受けやすく、遅過ぎると根の肥大不足になります。関東南部以西の温暖な平たん地のまきどきは8月中旬～9月中旬です。品種による違いもあるので、種子を求めるときに適期を確かめ、適期範囲のやや遅めにまき、管理を入念にして成長を促進するよう心掛けましょう。

(3) 間引きと追肥、入念な土寄せ

種子は1カ所5～6粒を、瓶などで円状に付けた溝にまきます。発芽して本葉1枚の頃から8～9枚の頃にかけて3回ほど間引き1本立てにします。間引く際には、子葉がハート形で素直に開いている株を残すようにします。異常に育ちの早い株や、形が非対称の株は、岐根や短形



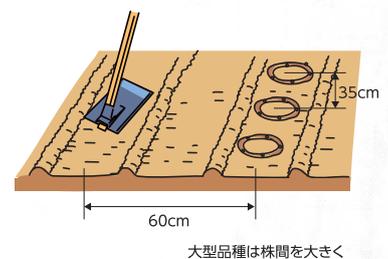
になる場合があるので残さないよう注意しましょう。

間引いたら株の周りに土を寄せ、風で振り回されないように保護し立ち上がらせます。追肥は第2回の間引き時から半月ごとに3回ほど与え、土を掛けて畝を作ります。肥料は化成肥料と油かすに加え、米ぬかを混ぜると食味が良くなります。

(4) 害虫の予防、駆除を怠りなく

アブラナ科野菜の常として各種の害虫（シンクイムシ、コナガ、アブラムシ、ハスモンヨトウなど）の被害が出やすいので、早めに発見、適応農薬を散布して防ぎます。

農薬に頼らない防除法としてはソルゴーを何列か置きに作り障壁にすること、防虫ネットやべた掛け資材の被覆などがあります。被覆は種まき後3週間以内ぐらいにししないと生育に支障を来すので、除覆する時期に注意してください。



※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。



JALしまね 総合ポイントカード「おさいふカード」会員様へ
優待割引のお知らせ



JALしまね ×



メガネの三城

メガネ一式
10%OFF!!

補聴器
5%OFF!!

ご利用の際には、提携店舗にておさいふカードをご提示ください。

提携店舗 島根県内メガネの三城全店 ※他の割引が併用できない商品・サービスが一部ございます。詳しくは係員にお尋ねください。

お問合せ



JALしまね 本店経済部生活課 [TEL] **0853-25-8907**

農業技術センターフェア

2018

～島根が魅せる、農業の‘いま’と‘みらい’～

[と き] 9月15日(土) 9:30~14:30

[と ころ] 島根県農業技術センター (出雲市芦渡町2440)

研究展示・セミナー

- ・メロンやブドウの育種、自家製発酵有機肥料等についてのセミナーと試食
- ・新技術等のパネル、現物展示、研究は場見学、栽培技術相談
- ・玄米の食味値測定 (1人2点まで: 1点につき玄米200g)

農産物・加工品販売

- ・職員が丹精込めて作った果物、野菜、花等の販売
- ・地域の特産物販売
- ・農福マルシェ (福祉事業所の製品)

お楽しみイベント

- ・野菜収穫体験
- ・ビンゴ大会、クイズラリー、キッズコーナー
- ・農業女子農作業服の展示
- ・出雲農林高校太鼓部の演奏、ふれあい動物園

■お問合せ■

☎0853-22-6708 島根県農業技術センター



謹んで豪雨災害のお見舞いを申し上げます

この度の大雨により被害を受けられました皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

島根県農業協同組合
代表理事組合長 竹下正幸

島根産の食材レシピ しまねうれしぴ

料理研究家 土井小百合

トマトカレー



水を入れずトマトの水分のみで作るカレーです。トマトから水分が出るように弱火で煮込みます。いつものカレーにトマトを入れるだけで甘みと酸味がプラスされてとっても美味しいです。

●材料（4人分）

米	2カップ	チリペッパー	小さじ1~
鶏もも肉	1枚	ターメリック	少々
玉ねぎ	2個	ガラムマサラ	小さじ少々
トマト	4個	カレールウ	4皿分
にんにく	1かけ		
サラダ油	大さじ1		

●作り方

- ①鶏肉は一口大に切り、塩、コショウをする。
- ②玉ねぎは千切りにする。トマトは皮を湯むぎにし、1cm角に切る。にんにくはみじん切りにする。
- ③鍋に油を入れ、にんにくを入れ香りが出たら、玉ねぎを入れて炒める。
- ④鶏肉も入れ炒める。
- ⑤鶏肉に火が通ったらトマトを入れて炒め、弱火にしてフタをして煮込む。（好みにより、チリペッパー、ターメリック、ガラムマサラを入れる）
- ⑥トマトが煮崩れ、水分が出たらカレールウを入れる。



表紙紹介

表紙のイラストは野々村 直通（ののむらなおみち）先生に描いていただいています。

今月の表紙は簸川平野の稲刈り風景です。簸川平野は、主に斐伊川が運んだ土砂などが堆積してできた沖積平野で、肥沃で平らという特徴から、山陰でも有数の穀倉地帯として知られています。早いところでは8月に稲刈りが始まり、夏の入道雲と簸川平野の代名詞ともいえる築地松が相まって、当地特有の風景を見ることができます。

編集後記

県内の多くの小学校では、JAが主催する「みどりを守る児童画コンクール」への出品を、夏休みの宿題の一環で取り入れていただいています。夏野菜の収穫や、おじいちゃんの畑仕事をお手伝いする様子など、素敵な夏を過ごしたことが伝わる絵ばかりで、私の毎年の楽しみです。今年はどんな夏だったかな？（和）

【今月の表紙の原画】

レイアウトの都合により表紙のイラストは原画の一部表示となっています。原画の全体は次のとおりです。

